



会場風景

宮崎理事長の基調講演に続き、招待講演として三和酒類株式会社取締役名誉会長 西太一郎氏に「グッドスピリッツ」と題して物作りから人

作りまでのお話、特別講演には日本医師会第一回赤ひげ大賞を受賞された直耕団吉野診療所所長の中野俊彦氏、内科医で福岡市副市長の荒瀬泰子氏のお二人にお話しいただきました。本学会活動の柱であります医療安全とクリティカルパスに関して2題の教育セミナーと「災害医療連携体制を考える」、「急性期医療から在宅医療における診療看護師の現状と展望」、「医療現場における臨床倫理への取り組み」、「医療と介護の統合：急性期から在宅への迅速な移行のために必要な事」の4題のシンポジウムを行いました。一般演題を含め活発な討議が行われ、これからの医療、医療と介護のつながりを考える有意義な大会だったと思います。市民公開講座では「高齢化社会を上手く生きるために」をテーマに国立病院機構東京医療センター総合内科医長 本田 美和子氏に「優しさを伝えるケア技術」、精神科医で作家の帯木蓬生氏に「老活で生きつくそう」の題で、参加いただいた多くの市民の方々の心に残るお話しをしていただきました。

最後になりますが、本連合大会の開催に当たりご支援・ご協力をいただきました多くの方々、ご参加いただきました皆さまに心より感謝申し上げます。

第11回宮崎県支部学術集会

学術集會会長：古賀総合病院院長 今村卓郎

2017年12月16日(土)宮崎県看護等研修センターで、「質の高い地域医療を担うために」をメインテーマに、第11回宮崎県支部学術集会を開催しました。特別講演として、平成医療福祉グループ医療事業部医療政策マネジャー 坂上祐樹先生に「これからの地域医療計画について」、さらに早稲田大学理工学術院教授 棟近雅彦先生に「病院における組織的改善：QMSアプローチ」のお話をいただきました。宮崎の地域医療を踏まえたわかりやすいご講演でした。

県内各医療機関より「教育」「災害」「感染」「医療体制」「クリティカルパス」などについて、口述発表32題、ポスター発表11題の発表がありました。

地域医療の質は病院に勤務するすべての職種が担うものであることを、302名の参加者すべての皆さんに

それぞれの立場で感じ取っていただけたのではないかと思います。本学術集会開催にあたりご協力いただいた関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

第8回沖縄県支部学術集会

学術集會会長：医療法人おもと会理事長 石井和博

「沖縄県におけるクリティカルパスの現状と未来」と題しまして、2018年1月27日(土)に大浜第一病院にて、約9年ぶりに



会場風景

沖縄県内で学術集会を開催いたしました。

特別講演として、日本医療マネジメント学会の副理事長でもあります朝日野総合病院長の野村一俊先生をお招きして、クリティカルパスの全国的な状況や今後についてご講演いただきました。参加者は熱心に聞き入り、会場から多くのご質問・ご意見があがりました。

また、沖縄県内から大学病院を含む4病院のシンポジストから、自病院のクリティカルパスの現状と課題をご報告いただき、野村先生を交えてパネルディスカッションを執り行いました。さらに、沖縄県内の10病院のクリティカルパス展示を行いました。

久しぶりの開催とあってか参加者は合計124名と予想を上回り、クリティカルパスへの関心の高さが伺えました。今後は継続して開催していきたいと思っております。

最後に、本学術集会の開催にあたりご協力いただきました皆様に心からお礼申し上げます。

講習会開催案内

2018年度医療福祉連携講習会

テーマ：医療・福祉分野の連携・調整のエキスパートを養成する

本講習会は、地域の医療及び福祉の円滑な連携の推進に寄与し、質的な向上を図ることによって、限られた医療及び福祉機能の効率化を図り、国民の医療及び福祉に資することを目的として、医療福祉分野の連携・調整のエキスパートを養成するもので、今回で9回目を迎えます。

本講習会の履修は、本学会の医療福祉連携士認定試験の受験資格必須条件となります。

定員に限りがありますので早めに申し込みくださいますようお願い申し上げます。